

# イデックスオイルレポート ~For a month~

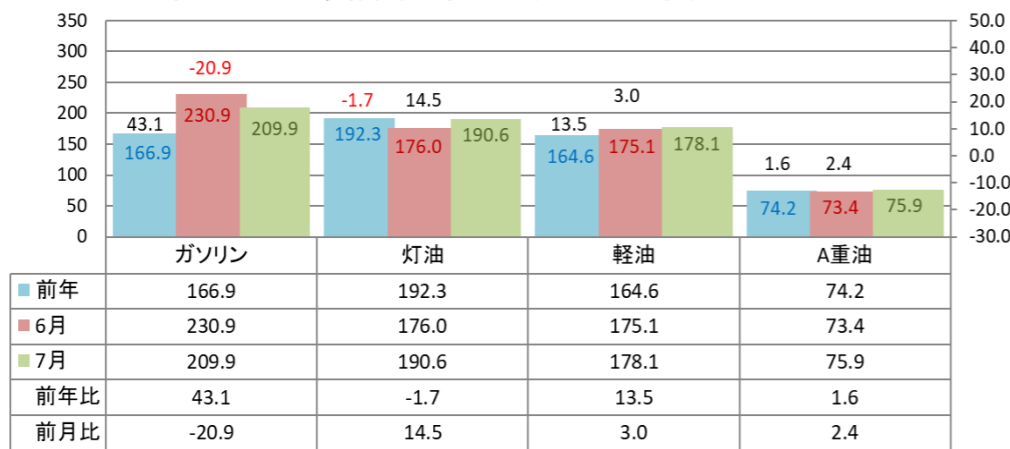
2021年8月2日作成 (株)新出光

## 【月次概況】

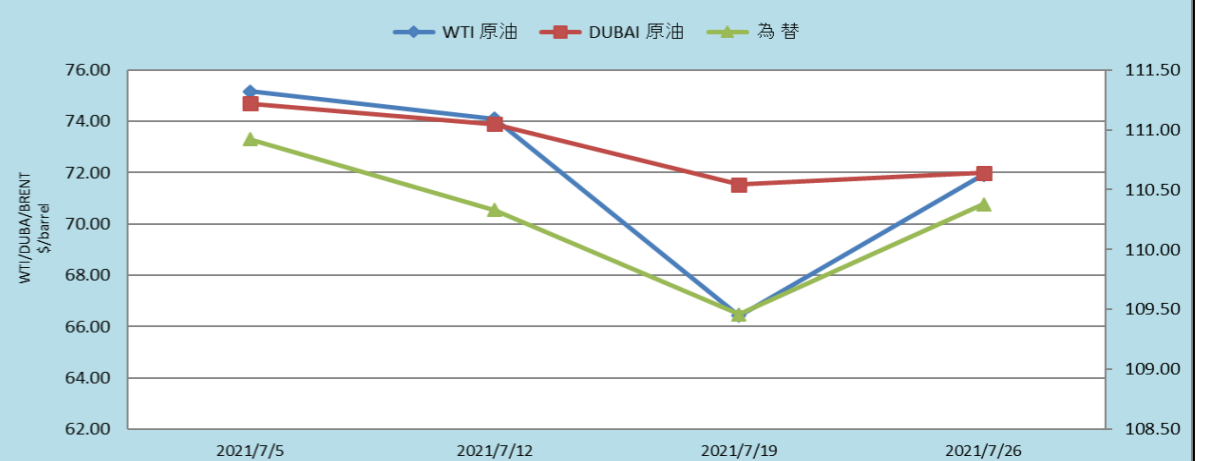
- 第1週、7/2のWTI原油は、先週比1.11ドル高の75.16ドルとなりました。OPECプラスは5日に予定していた閣僚級会合を増産をめぐる意見の相違のため中止しました。OPEC盟主のサウジアラビアが慎重な増産を進めるのに対し、アラブ首長国連邦(UAE)は自国の生産割当を増やすことを要求し折り合えませんでした。両国の対立により8月以降の増産方針が不透明となり、新型コロナウイルス禍から世界経済が回復する中、供給逼迫への警戒感が台頭し一時77ドルまで上昇しました。
- 第2週、週末7/9のWTI原油は、先週比0.6ドル安の74.56ドルとなりました。ロシアが仲介を指導しOPECプラスの増産合意に繋げようと動きましたが、新たな日程の目途は立っておらず先行きに不透明感が広がり原油は売られました。その後、米国内の原油在庫が前週比690万バレル減(市場予想400万バレル減)・ガソリン在庫も610万バレル減(市場予想220万バレル減)と予想を上回る取り崩しとなり需給引き締め期待が高まり原油が買い戻されました。
- 第3週、週末7/16のWTI原油は、先週比2.75ドル安の71.81ドルとなりました。ロイター通信は、OPECプラスの生産方針めぐり、サウジアラビアとアラブ首長国連邦(UAE)の協議が妥結したと伝えました。UAEは、自国の産油量引き上げにつながる生産基準の見直しを主張しサウジアラビアと対立していました。これを受けて今後の協議では、他国も増産規模の拡大を求める可能性が懸念材料として浮上りました。米西部やアジアでの新型コロナウイルス感染再拡大を背景に新たな規制措置が導入され、石油需要の減退を招くとの懸念も投資家心理の重しとなり原油が売られました。
- 第4週、週末7/23のWTI原油は、先週比0.26ドル高の72.07ドルとなりました。新型コロナウイルスの変異株により感染力の強いデルタ株の世界的な広がりを懸念し、週初19日は7.5%急落しました。ただその後は、根強い需給引き締め期待を支えに買戻しが入り下げ幅を一掃しました。OPECプラスが8月以降毎月日量40万バレルの協調減産縮小で合意しているほかWTIの受け渡し拠点であるオクラホマ州クッシングの原油在庫が2020年1月31日までの週以来の水準に縮小し世界的に在庫の圧縮傾向が続くとの見方が買いを促し原油価格は上昇に転じました。
- 第5週、週末7/30のWTI原油は、先週比1.88ドル高の73.95ドルとなりました。米エネルギー情報局(EIA)が28日公表した23日時点の米原油在庫は、前週比410万バレル減の4億3560万バレルと2020年1月末時点以来の低水準に縮小しガソリン・ディステレート(留出油)も予想を上回る在庫取り崩しとなりました。エネルギー需給の引き締め観測が投資家心理を支え原油は買われました。

7月平均	WTI原油	72.43ドル	前月比	1.08ドル	為替 1ドル	111.31円	前月差	0.18円
------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

国内石油製品在庫 7月24日時点 単位万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ 単位 円



日付	変動幅	変動幅
7/1~7/7	+1.0	+1.0
7/8~7/14	+0.5	+0.5
7/15~7/21	-1.0	-0.5
7/22~7/28	-0.5	-0.5
7/29~8/4	-0.5	-1.0

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP			ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2021年4-6月C重油決定価格	58,390	60,390	58,390(メニュー)+2,000(プレミアム)	
	2021年7-9月C重油仮価格	63,890	65,890	63,890(メニュー)+2,000(プレミアム)	
	2021年7-9月C重油決定価格			58,390(メニュー)+2,000(プレミアム)	

内航燃料油価格推移	適合油価格	
	2021年4-6月(決定価格)	A重油 64,400 / 69,000
	2021年7-9月(仮価格)	70,000
	2021年7-9月(決定価格)	

CIF価格推移	年/月	9析速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	21/6	9析速報	47,596	69.11	109.49	2,788
	21/7	最終予測	50,720	73.12	110.28	3,124
	21/8	展望	51,995	75.84	109.00	1,275
	21/9	展望	52,165	76.44	108.50	170

## 【8月価格変動要因】

- 需要面: 米中歐を中心にOPECプラスは下半期に日量約500万バレルの需要回復を見込んでいます。欧州で変異株の感染者が増加していますが重症者は少なく規制緩和傾向にあります。航空需要は国内・域内中心に回復が進みますが、国際線を含めた需要がコロナ前に戻るのは2023年末の見通しです。
- 供給面: OPECプラスは18日の閣僚協議で協調減産を8月から毎月日量40万バレルずつ縮小し、協調減産の枠組を2022年末まで続けることで一致しました。2022年以降の協調減産は様子を見ながら進めていく意向ですが、2022年9月に協調減産を終了する可能性もあります。
- 在庫: 米原油在庫は、過去5年の中で最も低い水準に近づいています。原油・ガソリン・ディステレート(留出油)在庫はいずれも取り崩しとなりドライブシーズンの需要が強い裏付けとなっています。
- 地政学: イラン核合意の修復協議について再開時期は、不透明となっています。イラン最高指導者のハメネイ氏は米国の頑固な要求を受け入れないとした一方、プリンケン米務長官は、ボールはイラン側にあり、イランの決断を見守っていると述べています。

## 【8月価格見通し】 (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	78	76
Average	75	74
Low	70	67

日付	国	8月経済指標カレンダー	日付	国	8月経済指標カレンダー
2	米	7月ISM製造業景況指数	17	米	小売売上高
4	米	7月ADP雇用統計	18	欧	7月消費者物価指数(HICP、改定値)
4	米	7月ISM非製造業景況指数	18	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
6	米	7月非農業部門雇用者数変化	24	米	7月新築住宅販売件数
6	米	7月失業率	26	米	4-6月期 四半期実質国内総生産(GDP、改定値)
6	米	平均時給	27	米	7月個人消費支出(PCEデフレーター)
11	米	7月消費者物価指数(CPI)	31	欧	8月消費者物価指数(HICP、速報値)
17	欧	4-6月期 四半期域内総生産(GDP、改定値)			

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂く様お願い致します。